

## 2021 年春交渉 第 1 回労使協議会 豊田社長あいさつ全文

### **① コロナ禍での頑張りに対する感謝**

まずは、コロナという

これまでに経験したことのない危機に直面しながら、

働き方を変え、それぞれの現場で、改善を続け、

「今やるべきこと」「当たり前のこと」を地道に、

コツコツと積み上げてくれた皆さんの頑張りに対し、

あらためて感謝申し上げます。

本当にありがとうございます。

### **② 自動車は「みんなで一緒にやっている」産業**

今回の労使協議会に入る前に、

もう一度、思い起こしたいことがあります。

それは、豊田喜一郎をはじめとする創業メンバーの挑戦とは、

「未来のために、日本に自動車産業を興す」ことであり、

「強いトヨタ」、「居心地のいいトヨタ」をつくることではない  
ということです。

「自分たちが良ければいい」。

そう思っている人もいるかもしれませんが、

それは「トヨタ」ではないと思います。

日本のため、未来のために、  
私たちがやるべきことはたくさんあると思います。

東日本大震災からの復興に加え、コロナからの復興。  
カーボンニュートラル社会の実現、  
SDGs の目標達成に向けた貢献。

いずれも、トヨタだけではなく、  
自動車産業に関わる全員で取り組んでいくことばかりです。

これまでも、自動車産業ほど、雇用を守り、未来への投資を続け、  
税金を納めながら、日本経済を支えてきた産業はありません。

コロナと闘いながら、  
日本の移動を、私たちの日常を支えてきたのも  
自動車産業で働く 550 万人の仲間たちです。

しかしながら、  
誰からも「ありがとう」と言われることはありません。

年始に発信した「550万人へのメッセージ」は、  
自工会会長として、  
さまざまな現場で働く仲間「ありがとう」を伝えたい。  
あのメッセージを見てくれた人の一人でもいい、  
現場の仲間「ありがとう」と言ってほしい。  
そのひと言が、現場で頑張る仲間の力になるかもしれない。  
それが、あのメッセージに込めた私の想いです。

自動車産業は、「みんなで一緒にやってきた産業」です。  
そして、これからは、550万人という仲間、  
「もっと多くのみんなと一緒にやっていく産業」です。

だからこそ、お互いに「ありがとう」と言い合える関係が  
大切だと思います。

今年の話し合いのテーマは明確です。

トヨタは、どうすれば、550万人の仲間から、  
「ありがとう」と言ってもらえる存在になれるのか。  
それを労使で、とことん考えることだと思います。

例えば、賃金についても、そうです。

赤字の時でも、皆さんの賃金はずっと上がり続けています。

その分、仲間から頼りにされる存在になっているとか、

生産性が向上しているというのであれば、

周りの人たちにも納得してもらえenと思います。

しかしながら、仕事の「原単位」がはっきりしていて、

「生産性が向上した」と言えるのは製造現場の話であって、

事技系職場では、「原単位」さえ、あいまいであるのが現状です。

いま、事技系職場でも、TPSを導入しようと

頑張っていたいただいておりますが、

これは本当に大切なことだと思います。

私は、「みんなでやっている」自動車産業においては、

仲間の「納得感」が大切だと思っております。

これまで、副社長職を廃止し、執行役員の数も大幅に削減するなど、改革は、常に上から進めてまいりました。

これもすべて、「みんなでやっている」という考え方に

基づくものです。

### ③ 正直な家族の会話をしよう

一昨年秋の労使協議会では、「労使宣言」を振り返りながら、「会社は従業員の幸せを願い、組合は会社の発展を考える。そのためにも、従業員の雇用を何よりも大切に考え、労使で守り抜いていく」

これこそが、私たちが忘れてはならない労使の「共通の基盤」であることを確認し合いました。

昨年まとめたトヨタフィロソフィーの中でも、自分たちの使命として「幸せの量産」を掲げました。

「トヨタで働く人たちの幸せとは何か」。今回の労使協議で、改めて、考えてほしいと思っております。

今まで以上に、「YOUの視点」が必要になります。まずは、「自分たちが恵まれている」という事実気づくこと。それが最初の一步になるはずです。

今回の話し合いも、すぐに答えが出ないものばかりだと思います。

それでも、時間をかけて、ともに悩み、  
ともに現状を打開するやり方を模索する。  
それが「家族の会話」だと思います。

今日、2月24日は、偶然にも「トヨタ再出発の日」です。  
米国公聴会以降のトヨタは、隠したり、ごまかしたりせず、  
本当のことを正直に話して、生き抜いてきたとっております。

本当のことを話すのはリスクがあります。

しかし、リスクを越えていくことができるのは  
正直な会話だけであり、  
その先に、人間同士の信頼が生まれるのだと思います。

本年も、正直な、素直な「家族の会話」をしてまいりましょう。